島根県立三刀屋高等学校
校長発 『本流』
【4月号②】令和５年４月７日

■令和５年度を迎えて―始業式にて―

＊一部入学式式辞と重複する部分があることをご了解ください。

三刀屋高校は大正 13（1924）年に県内５番目の旧制中学校として開校し、今年で 99 周年を迎えます。来年の 100 周年を前に、人で例えるならば漢字の百から上の棒「一（イチ）」をとって白寿というお祝いの歳となります。校歌にある「歴史をかえりみ新たにいま」のとおり、皆さんとこれまでの三高の歴史を見つめ直し、新たなステージに向かえる一年にしたいと考えています。

そんな今年度のスタートにあたり合言葉をつくりました。「**向き合う。その先に…**」です。「**向き合う**」と聞いて皆さんが頭に浮かぶものは何でしょうか？人？もの？それとも悩みや課題？「**向き合う**」の意味を辞書で調べてみると「互いに正面を向いて対する」とあります。ことばのニュアンスとしては、あまり見たくないものを見るという感じですかね。つまり「**向き合う**」ためには一定の“覚悟”や“つよさ”が必要といえるということでしょう。からだの“つよさ”ではなくこころの“つよさ”ということです。

私は、教頭として３年間この学校に勤務し、皆さんの活動に接するなかで何回か“恥ずかしい思い”をしました。課題研究やスペシャルチャレンジでの活動の様子や成果発表、ひたむきに部活動に打ち込み、時には悔し涙を見せる姿、そのどれもが高校時代の自分には圧倒的に欠けていたものでした。高校時代の自分と比べると本当に恥ずかしく、逃げ出したい気持ちにさえなりました。「おまえいったい高校生の時に何をしてたんだ！」と自問自答する機会が多くありました。

私はこの高校で３年間を過ごした卒業生です。ただ、この学校に勤めるまであまり高校時代の自分に「**向き合う**」ことはしてきませんでした。それは、高校時代の弱い自分に「**向き合う**」ことが怖かったんだと思います。「**向き合う**」には、一定の“覚悟”や“つよさ”が必要なんですよね。つまり自分はとっても“よわい”人間だったと。皆さんはどうかな？新年度のこの機会に自分自身に少し「**向き合って**」みませんか。「その先に」は、きっと新しい世界、可能性が開けていると思います。

でも、正面から「**向き合う**」と疲れるよね。たたら製鉄を見学した際に、日本刀をつくる刀匠の方が言っていました。何でも切れるような“かたさ”ばかり追い求めるとポキッと折れやすくなってしまう。だから“かたさ”とともに“柔らかさ”も必要ですと。相反するようですが、何事においても、時には柔軟に考えたり、かわしたりする“しなやかさ”も必要ということです。

皆さんを応援してくれる誰かは、必ずいます。“よわい”自分をみせることができるのも一つの“つよさ”ですよ。

２年生は、三高生から受験生に、３年生は、受験生として具体的な夢の実現に、時間は限られています。しかし、皆さんの可能性は無限大です。皆さんが「**その先に…**」進んでいけるよう、私たち教職員は、努力を惜しみません。これから一年間「チーム三高」でがんばりましょう。